

# こうげい

都立工芸同窓会会報 No.179

2022年（令和4年）4月8日発行

## 春

Spring, 2022

### 投稿を歓迎します

- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍の様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先 都立工芸同窓会

(住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。)

またはホームページのお問い合わせよりご投稿ください。

2022年度総会（こあんない）

日時——5月21日「土」

記念講演（参加費無料）午後1時

会場——母校1階視聴覚室

講師——福田哲夫氏（1967年D卒）

演題——「新幹線のつくり方を変えたデザイン」

都立工芸に学び助けられた半世紀

総会（参加費無料）記念講演終了後、引き続き開催

総会後の懇親会は、新型コロナ感染拡大防止に配慮し、行いません。ご出席希望の方は、同封のハガキに必要事項を（記入の上5月8日までに投函をお願いいたします。 ※ご来校の際は、感染予防をお願いいたします。

「新幹線のつくり方を変えたデザイン」都立工芸に学び助けられた半世紀

講師 福田哲夫氏

#### ■プロフィール

東海道新幹線開業の1964年に都立工芸高等学校デザイン科に入学、デザインを学び始める。卒業後は日産自動車に就職、エクステリアデザイナーとしてスケッチから生産展開まで貴重なデザインプロセスを学ぶ。1970年代にローマクラブの報告書「成長の限界」と出会い環境問題に目覚め自動車会社を退職。その後フリーランスとして活動。

1985年、未来にあるべき姿を描く仮説提案型のアドバンスデザインに特化したエイアンドエフ（株）を設立し現在は顧問。産業技術大学院大学名誉教授、日本デザイン振興会グッドデザインフェロー等々。デザイン学会、JIDA会員。

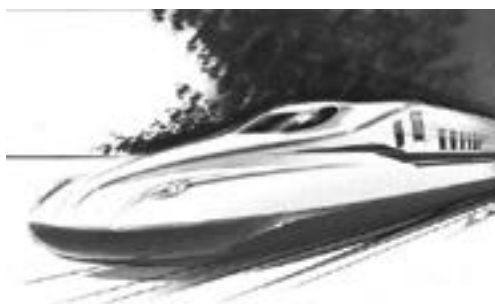
#### ■講師からのメッセージ

東海道新幹線は、1964年の東京オリンピックと同時に開業、今では世界の高速鉄道を牽引する存在として認知され、半世紀を超えてなお進化し続けています。

中でも最速「のぞみ」号の登場は今年30周年、運良くそのすべての車両デザインに携わることができました。

デザインは、単に形や色など審美的構成だけでなく、車内の快適性から沿線環境まで工学領域の技術的な課題解決の手段としても有効であることを一つひとつ証明する仕事でもありました。感性領域の風・音・光をテーマに提案し続けていることをお伝えいたします。

また技術の伝承と実務教育に取り組むもう一方の軸からは、都立工芸で学び今に繋がる夢の大切さについてもお話させていただきます。



都立工芸同窓会 会長  
梶 広幸

(1969年・D卒)

関西工芸会 会長  
丸山 士郎

(1968年・A卒)

中京工芸会 会長  
五反田 稔

(1960年・M卒)

都立工芸同窓会 副会長  
磯野 祥

(1989年・A卒)

都立工芸同窓会 副会長  
岡田 里美

(1989年・F卒)

都立工芸同窓会 副会長  
佐々木 慎一

(1973年・P卒)

都立工芸同窓会 理事  
㈱坂巻工芸社 代表取締役  
坂巻 章雄

(1980年・A卒)

㈱フォレスト 会長  
茂木 益雄

(1955年・P卒)

㈱ソフケン 代表取締役  
駒村 武夫

(1965年・D卒)

小学生用水平開き学習帳製造販売  
米・欧特許取得ノート発売  
㈱中村印刷所 代表取締役  
中村 輝雄

(1963年・P卒)

都立工芸同窓会 理事  
神山 隆夫

(1968年・A卒)

都立工芸同窓会 理事  
荒井 拓哉

(1960年・D卒)



撮影・神山隆夫 (1968・A卒)

都立工芸同窓会 監事  
㈱スパイク 代表取締役  
桜井 洋一

(1968年・F卒)

都立工芸同窓会 理事  
㈱ステーション・エム 代表取締役  
細江 邦雄

(1966年・M卒)

開発力・提案力・デザイン力を  
高めてくれる若者の参加を  
求めています

sofken.co.jp

レオナルド・ダ・ヴィンチ工房をめざして 医療器の開発に取り組んでいます。

**SOFKEN** 株式会社 ソフケン  
「人のキモチ」をモノに、カタチに



### ホームページのリニューアル完了

同窓会ホームページがリニューアルされました。  
メールマガジン登録をさせていただくと記事アップ報告や同窓会からのWebメールが届きます。ぜひご登録をお願いいたします。

以下のQRコードから登録をお願いいたします。



<https://www.kogeioib.com/>

# 会長就任の「挨拶」

新会長 梶 広幸

この度、理事会にて都立工芸同窓会（旧・築地工芸会）会長に「ご指名いただきました。」



微力ながら出来る限りの努力をさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

都立工芸は創立以来百十五年の歴史があり、同窓会は戦前から存在しましたが現在の都立工芸同窓会は昭和三十年に再発足され六十七年目を迎えております。同窓会創立以来の会則では、工芸に在籍した同窓生全てを同窓会員と位置づけ、おり総計では凡そ二万五千人の「老・壮・青」多くの方で構成されております。現在、会報は毎回三千三百名前後にお届けし千名強の方から会費を頂いておりますがその構成は年配の方が中心となっております。この状況は、若い同窓会員が興味を

持って参加出来る活動が不十分であった結果だと考えられます。

同窓会には「老・壮・青」各年代会員の期待は基より、時代に合った運営が求められております。前年度はこの課題の解決に向けて大賀前会長のリーダーシップと実行力で会則の変更と、新たに理事会運営規約の明文化が行われました。広報部会も組織され、今年度以降はこの改革の志を実現する事が会長以下理事会の役割と認識しております。

既に二十一世紀も二十年強が過ぎましたが、世界を大きく変えるコロナパンデミックが学校は基より同窓会にも大きく

影響を及ぼしております。今年二月、初めてリモート会議（TV会議）で理事会が開催されました。また、動き出した改革として本紙「こうげい」は前号（178号）より誌面デザインが刷新されました。さらに今後は編集内容の見直し、刷新ホームページとの連携強化、各媒体の機能に合った情報発信などを進めさせて頂く予定です。新たな「都立工芸同窓会」は皆様の「老の経験・壮の実現力・青のアイデア」と協力を頂く事によって、皆様の期待と時代の要請に沿った運営が実現出来ると考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

（1969年D卒）

# 会長退任の「挨拶」

前会長 大賀 勉

築地工芸会という名称の最後の会長となりました。多くの理事会の皆さんや母



間の会長職を退任することとなりました。三年間とは言えコロナ渦の影響、活動の自粛や制約もあり、皆様と十分なコミュニケーションができなかったことをお詫びいたします。

さて、私が当初、会長をお受けするにあたっては戸惑いもありましたが、先輩からお話があり、お受けした経緯がありました。やはり工芸のタテの糸は強いものがあります（笑）。同時に振り返れば、お世話になった工芸時代の先生や仲間を思い浮かべ、私で出来るならば、と考えた次第です。当初は学校行事の挨拶や理事会の参加ぐらいを考えていたのですが、同窓会も様々な課題に直面して

ることが分かりました。残念ながら収入の減少傾向が続く厳しい状況にあり、昨年は会費の納入や寄付金をお願いをさせて頂きました。快くご支援いただいた会員の皆様に感謝を申し上げます。一方で、母校一つとっても今や進学率は約九割、女子生徒数は約七割強という変化、世間では日本型タテ社会も変貌しています。同窓会もあり方を再確認しなければならぬ時期にきていると思います。

多くの会員や在校生、PTAの方々にも、同窓会の活動を分かり易くするため、先ずは同窓会名称の変更、会則の改定、運営規約を作成しました。開かれた同窓会にするためには活動の目的を明確

にして、共通認識の下で、さらに充実した活動内容になることを期待しています。また、一般財団法人築地工芸会工芸基金の課題もありました。同窓会とは別組織ですが深い関りがあり、基金は母校の学業支援に大きな役割もついています。新たな定款と組織で新年度からは再スタートの見通しです。また、それらの整備を踏まえて、新年度からはホームページのリニューアルも進めております。任期中では総会、卒業生作品展など、大変ご協力いただいた理事の皆様、そして温かく迎え入れていただいた支部の皆様、学校職員の皆様、心より御礼申し上げます。

（1970年P卒）

# 会則変更と運営規約の設定について

築地工芸会前会長 大賀 勉

同窓会の活動をどのようにしたら更に活性化し、より多くの卒業生の皆様に参加やご協力をいただけるのか一昨年以来、理事会で度々議論がされてきました。その結果、社会環境の変化を踏まえて、

①もう一度同窓会の原点に立ち戻った上で、趣旨、活動の目的を言葉に落とし共通の言語で語れるようにしたい。  
↓目的の共有化

②どのような組織でどのような活動をしているのか分かり易い環境にしたい。  
↓活動内容や組織運営の見える化

右記2点が大きなテーマとなりました。考えれば、理事会の皆様が同窓会の目的や活動内容を明確にしなれば、理事会も活性化出来ませんし、多くの会員の皆様にもご協力、ご支援をいただけません。時代や社会環境変化の中で、理事の交代、会員入れ替わりなど新陳代謝も当然ながら起こっています。同窓会運営は「心意気や熱い思い」だけではなく「分かる言葉や見える活動」によって人から人に伝え、時には共通意識の下で修正、改定をしていく必要があると思います。

さらに、このテーマに沿って理事会やプロジェクトによって検討を重ね、実行項目として先ずは「会則の見直し」「理事会運営規約の作成」に着手することになりました。

今回はそのプロセスを踏まえ、令和4年4月1日より梶新会長のもとで運用開始にあたり、要点をご説明させていただきます。

## [1] 同窓会の名称を変更

今までの「築地工芸会」の名称が懐かしくもありませんが、既に水道橋に移り多くの時間が経過しました。また、この名称は同窓会名称であるのか判別もつき難いためストレートな名称「都立工芸同窓会」に改名しました。勿論旧名称も思いのある方もいますので、併記します。誰でも分かり易く、ポイントです。

## [2] 同窓会の活動趣旨を再確認、明文化

同窓会は過去の懐かしさだけでなく、工芸の絆を大切に、これからの仕事を深め生活を豊かに楽しくしていきたい、そして母校や在校生を応援したいという、「現在」「未来」に繋げたいという思い、

願いを会則の前文として打ち出しました。

## [3] 「一般財団法人築地工芸会工芸基金」(以下、工芸基金に省略) について明記

同窓会と工芸基金は財団法人で別組織であるため、同窓会ではこれまで設立趣旨、経緯や、活動内容などについて曖昧な状況でした。工芸基金は在校生学業支援のための大きな原資になっており学校活動に大きく影響します。同窓会は的確な運営をするために、工芸基金に理事長、評議員、監事を選出していますが、当然その活動内容は同窓会として情報を共有しなければならぬ立場にあります。また、工芸基金は将来、枯渇することは明白です。今から少しでも原資の充当を同窓会が実行することにより母校、在校生を支えていく活動を指針の一つにしました。

以上が大きな変更点ですが、その他会員とは誰を指すのか会員の定義、関西工芸会・中京工芸会など支部との関係性、同窓会活動内容の大枠も明記しました。さらには理事会での活動を分かり易くするため「理事会運営規約」も設定しました。コロナ禍の中で理事会開催も制約があった状況でしたが、多くの理事の皆様のご協力をいただき新たな会則と理事会運営規約が出来ました。詳しくは理事会にて配布いたします。またホームページでの掲載もしておりますので是非一読下さい。また、会則や規約は作ることが

目的ではなく、あくまで皆様分かり易く活動ができ、さらにその成果を出せるかが何よりも大切です。必要があればどんどん見直しすることも良いと思います。そして、これをベースに会報誌やホームページ、総会などをもっと充実させたいと考えています。

最後に多くのご意見ご提案をいただいた理事の皆様、そしてプロジェクトに度々参加していただいた関係各位に御礼を申し上げます。

プラスチック 真空成形型 圧空成形型  
金型製作 プレス成型 トムソン抜型

企画 デザイン — 試作 — 本型製作 — 成形仕上げ

**V.MOLD** バキュームモールド工業株式会社

本社・〒231-0031 東京都墨田区墨田5-23-11  
tel 03(3634)1546 fax 03(3634)1559  
埼玉工場・〒340-0831 埼玉県八潮市南後谷1-07-5  
tel 048(932)5440 fax 048(932)3960

詳しくはホームページで  
<http://www.vrmold.co.jp/>  
e-mail  
aduser@vrmold.co.jp



# 事務局より

## 一般寄付ご芳名

昨年7月17日以降、本年3月1日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。どうもありがとうございました。

(順不同・敬称略)

佐味貴義、和田勝、野崎昇、日置雄毅、宮崎忠夫、服部功、永田忠史郎、中代源次郎、安原敏郎、山崎邦男、宮崎忠夫、笠井伸枝、石原義久、馬場和夫、戸村正二、中山清、西多玲奈、市原博信、斎藤誠、田中和行、藤原高遠、津久井弘光、小林博、桂剛、安室典忠、飯沼勲、木下晴雄、木村ふみ子、板垣秋司、所和男、神山隆夫、宇津木俊徳、小泉弘、中村圭佑、中林満男、岡野哲夫、鈴木誠三、瀧島佳代、高井四郎、佐野一義、安永麻衣子、笹沼健一、原典生、春山忠雄、野島進、石毛多喜男、山口治夫、柴田良雄、関根伸司、小川智敬、時田桂代、赤木正民、加藤泰弘、沢崎孝子、大場康博、不二山伯、高野涼香、栃木靖男、斎藤文一、安藤孝久、伊藤正好、加藤勝巳、大野礼奈、藤原伸一、今野健三、関宏一、中田実、山岸政彦、橘正春、松井眞矢、小池源朗、山田敏雄、猪俣達夫、安倍和人、金井昭三、宇津野隆、若沢良雄、吉田積人、竹内大生、岩富弥太郎、小川光、福田満、辻丸佳代子、小内一子、新井徹夫、恩田隆志、村林喜貞、伊藤早苗、水谷美千夫、丸山士郎、小宮央、国本好子、菅香世子、愛甲喬、山根あおい、佐藤智子、光石史子、杉本眞有子、杉本弥和子、小野塚均、杉山哲三、山田一彦、松富壽嗣、坂巻謙一、須田賢司、

伊澤沙羅、前川三男、平井光吉、三浦保之、篠宮秀雄、遠藤英雄、杉原由美子、井上伸行、田口寿恒、古木嘉雄、倉田淳也、小池博、鈴木次雄、塚本雅一、山口博幸、矢島政幸、本多和己、服部真澄、奈良本光治、秋葉利子、能登崇行、徳宮陽子、竹村郁香、高田愛子、片寄愛、小松佑福田佳代、玉田愛海、井上稔、山田実、上勝鉄夫、山崎千夏、根岸史直、青野博、永野間輝久、石川昭夫、黒田次郎、清水旭、堀田喬夫、伊崎憲利、小川千秋、橋本悟、山林愛実、久保田裕之、多々見草太、萩原明、河田拓吉、筒井健郎、宮内捷、服部一、矢沢四郎、恒成芳郎、桐淵典記、坂中修、亀田幸郎、巻嶋勝、飯田眞実、瀧下宗雄、神山智子、武田和之、高塩廣之、時澤洋一、小林重行、恰土昌子、寺岡哲平、久保田晃、久保田真奈美、黒田春香、山田太志、栗原松男、富岡征男、羽生宏行、谷森隆三、桑原満、木村仁宣、北村慎二、山田恵穂、池田博、飯塚邦雄、片岡良亮、嘉藤浩一、高谷智子、森田七星、山田寿美、山内勇、矢野利明、上口睦人、櫻井明子、山田嘉守、鹿野伸子、小野崎昇、勝田ふみ江、宇田川政和、仲波由美、金子秀行、久世佳史、野村岳、川中子朝美、山根歩海、白木快侑、曾我部上、久保田晴彦、鈴木次雄、杉本勉、中澤泰男、山口博幸、阿部栄子、今井定義、天津永二、市原実、河合孝、野永由美、三橋宏之、地濃正明、関根眞美、木暮敏江、堀内茉莉乃、小林知花子、遠藤零、福田佳代、諏訪智恵子、藤本威、菅藤剛、小林久典、上勝鉄夫、山崎千夏、原和男、小泉久吉、大滝史博、清徳保雄、九合謙一、小口輝夫、小川千秋、小林清一、河合泰雄、勝田雅彦、堀井輝和、井戸健輔、峯岸海、遊佐文佳、新城由史、長井英太郎、河田拓吉、松本七五三吉、西井和男、矢沢四郎、山本一郎、吉口一広、西威男、保科和夫、松本実、栗田義夫、小池孝、紫藤竹夫、地主広明、小林重行、伊東久江、土屋秀幸、

西和、杉田美子、小澤奈奈、高橋みかげ、伊原光太郎、間中辰男、三瓶正一、桑原満、堀内瑠純、安達豊治、北村慎二、襟川英利、亀井正弘、小森英夫、佐々木正和、都築晋平、石川勝、福島潤、金素希、外戸口柚花、森田七星、小早川亨、林兼明、松村金太郎、杉浦俊和、大賀勉、多田洋一、吉野香恵、松永華子、石田武史、宇都宮和子、鹿野伸子、菊地道子、横山肇、福田哲夫、豊岡恵子、大野早苗、千明敏浩、古谷芳、藤田美優、齋藤ひな、昭和32年F卒一同、愛甲喬、小林広季

2021年度累計 969、560円

## 役員改選について

2022年度は役員改選の年で、当番科はP・G科からD科になります。任期2年

### 2022年度・2023年度役員(敬称略)

- 会長 梶 広幸 (1969・D卒)
- 副会長 磯野 祥 (1989・A卒)
- 藤岡 俊平 (2014・M卒)
- 岡田 里美 (1989・F卒)
- 佐々木慎一 (1973・P卒)
- 菊地 和浩 (1983・D卒)

### 理事

#### A (アートクラフト科)

- 杉本勉 (1961)、井上正治 (1967)
- 神山隆夫 (1968)、堀越敏晴 (1968)
- 石井正美 (1979)、坂巻章雄 (1980)
- 松本礼 (1990)、佐藤充俊 (2005)

#### M (マシンクラフト科)

- 細江邦雄 (1966)、眞田李風 (2019)

#### F・I (インテリア科)

- 桜井洋一 (1968)、池田成孝 (1985)
- 伊東久江 (1985)、佐藤貴志 (1989)
- 明間秀信 (1990)、坪井裕 (1990)
- 宮田潤一 (1990)、久保田晃 (1993)
- 久保田真奈美 (1993)

#### P・G (グラフィックアート科)

- 大賀勉 (1970)、都築晋平 (1976)
- 井出賢一 (1986)、久保木秋徳 (1988)
- 福田善志 (1989)、岡崎晴重 (1990)
- 渡辺富一 (1993)、久保遊 (2004)
- 富成世梨 (2008)、佐藤万里子 (2008)

#### D (デザイン科)

- 荒井拓哉 (1960)、岩井昌代 (1964)
- 中山れいこ (1966)、福田哲夫 (1967)
- 鈴木陽子 (1971)、佐藤秀男 (1976)
- 久世佳史 (1987)、杉原由美子 (1992)
- 鶴飼千春 (2013)

### 地方支部

- 中京工芸会会長 五反田稔 (1960・M卒)
- 関西工芸会会長 丸山士郎 (1968・A卒)

### 監事

- 桜井洋一 (1968・F卒)

# 支部だより

## 中京工芸会だより

第1回総会が覚えやすい前五輪開催の昭和39年から毎年開催されて来た中京工芸会の第57回総会の開催の広報を今年度こそ発信したいと願っております。

前回原稿に記載した工芸校舎が映り込むマラソンシーンがパラリンピックで実現して楽しんだ競技観戦と共におまけの感激でした。その秋の原稿の「110年を超える歩み」第2回で旧校舎の記述が掲載されて思い出すが、大好きだった階段室の話や中庭の事など年代を越えて語り合えた中京工芸会場の貴重で、私には「もっと知りたい都立工芸の歴史」で、戦時中の体験などを含めて歴史教室でした。それも都立工芸在校生の想いが有るからこそその共感なので、現在在校生の少しでも多くの体験を願うばかりです。

北京五輪の中日の現在、すべてがまだ不透明です。高齢者が安心して集えるようなアイデアが有りましたら、教えてください。それまでは、会員の皆様の健康を祈り、この原稿を読んで下さったすべたの方々、そして、在校生の皆様の健やかな日常を切にお祈り申し上げます。

中京工芸会事務局 井上京子

## 関西工芸会の集い

毎年11月に開催してきて59回目を迎えた令和元年の関西工芸会の集い後新型コロナウイルス感染症拡大。その苦難に伴い令和2年3年と2年連続で関西工芸会の集いを丸山会長と協議の上中止にして参りました。今年度の関西工芸会の集いは現時点で開催できるかは未定の状況であります。

この2年間で関西工芸会の会員の皆様と直接お会いできず、毎年恒例の案内状と一緒に送付する出欠ハガキでの近況報告のやりとりが滞り、皆様がこのコロナ禍においても元気に生活されているか心配をしております。本年は関西工芸会の開催の有無を問わず皆様にはお便りを送らせて頂くこうと思っております。

昨年の春の会報に寄稿しました制作したネックレスのことなのですが、その後雑誌家庭画報に大きくとりあげられ国内外から大きな反響を頂きました。

アートクラフト科に入学し1年次の必修科目で経験した純銀の指輪制作をきっかけにジュエリー職人の道を目指し、高みを求め19歳の時に世界的なハイジュエリーブランドに挑み本年度ハイジュエリー職人人生20年目を迎えました。先日

福井県の時計職人で100歳の今なお現役で活躍されている職人の存在を知り、私も100歳まで現役の職人を目指す目標が出来ました。これから残りの60年間の間に世界のジュエリー史に残るジュエリーを制作する事が楽しみであります。

私のように工芸高校で学んだことが人生を決める大きなきっかけとなり夢を叶え活躍されている方は沢山おられます。この未曾有のコロナ禍において在校生の皆様におかれましては私達が経験してこなかった不慣れた学校生活を強いられている事もあるかと思いますが、他校にはない夢の種が沢山ある工芸高校生活です。で1日1日を大事に楽しく過ごして下さい！

これからの未来のものづくりを担う工芸魂を持った在校生皆様の活躍を期待しております！

在校生や卒業された皆様がいづの日か関西に引越して来られる事があれば、全日制・定時制の同窓生が集う関西工芸会という存在があることを是非思い出して頂けたら幸いです。その際は学校や都立工芸同窓会に気兼ねなく御連絡下さい。様々な分野で活躍され引退された先輩から、現在第一線で活躍されている先輩、世代の垣根を越え同じ工芸生として愉快に集える会を今後も企画・開催して参ります。

関西工芸会事務局 松田健

# 訃報

前回の会報、178号以降、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

○ 内は逝去された日です。

藤縄秀一氏	旧校長	(R 2・5・5)
内藤亮一氏	S 17 F 卒	(R 3・4・29)
佐藤芳男氏	S 18 A 卒	(R 1・5・2)
遠藤佑治氏	S 18 M 卒	(R 3・8・14)
岩富弥太郎氏	S 18 M 卒	(H 30・9)
大久保勇氏	S 20 M 卒	(R 1・7)
久保隆司氏	S 20 F 卒	(R 3・8)
山本一郎氏	S 20 F 卒	(R 3・4)
新相 弘氏	S 20 P 卒	(R 3・10・31)
名倉祥一氏	S 24 M 卒	(H 29・2・3)
土屋力勇氏	S 28 M 卒	(R 2・5)
宇田川徳治氏	S 29 M 卒	(H 31・2・20)
矢嶋弘志氏	S 29 M 卒	(R 3・10・18)
網島昭夫氏	S 29 D 卒	(R 3・5・31)
沢田貞三氏	S 30 M 卒	(R 3)
栃木 清氏	S 30 P 卒	(R 3)
梅林稔広氏	S 32 M 卒	(R 3・1)
樽林義剛氏	S 32 F 卒	(R 3・9・15)
大沼正道氏	S 33 A 卒	(R 4・1・31)
中山 清氏	S 33 M 卒	(R 4・1・9)
鈴木季晴氏	S 34 A 卒	(R 1・6・20)
横井 豊氏	S 36 M 卒	(R 3・9・15)
横山勝宏氏	S 36 M 卒	(R 2)
根岸利行氏	S 36 P 卒	(R 4・1・4)
清徳保雄氏	S 37 M 卒	(R 2・11・4)
片岡 彪氏	S 38 M 卒	(R 3・9・27)
鈴木輝夫氏	S 39 A 卒	(R 2)
関 公宇氏	S 39 F 卒	(R 3・9・15)
金子堅一氏	S 42 P 卒	(R 1)

# 110年を超える歩み もっと知りたい都立工芸の歴史

スペイン風邪が1918年から1920年にかけて流行し、世界の人口の半数から3分の1が感染したとされる最中、金属細工科は金属工芸科、家具製作科は木工科、印刷科は製版印刷科に科名を変更し新たなカリキュラムを導入した。関東大震災で校舎全焼、他校との合併案。空襲により校舎一部被災、デザインをするのは非国民と言われた戦時下にも「工芸高校」であり続けようとした。

## 第3回

開化の築地に建てた校舎は万年橋のもとに映えるツートーンカラー

### ○文明開化の地を学校建設地を選ぶ

1868年（明治元）、政府は築地・鉄砲洲（現在の明石町。聖路加ガーデンのあたり）に外国人居留地を設置した。そこに宣教師や、教師、外交官が住み、煉瓦の洋館が整然と区画された道に沿って並んでいた。教会やミッションスクールが生まれ、英語のみならず西洋の文明にふれることのできる地であった。慶應義塾、立教大学、工学院大学、青山学院、明治学院などのちに大学となる教育機関が発祥したのも築地であった。

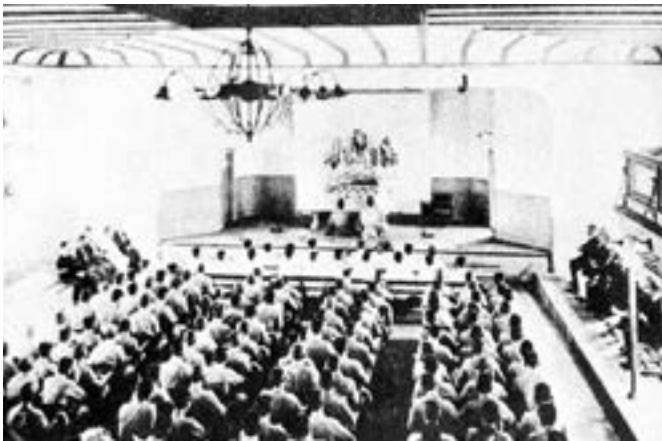
また1872年に海軍省がおかれ、1873年に東京築地活版製造所がつくられ、1895年には築地病院（現聖路加病院）が創立された地でもあった。

文明開化のまばゆい光や新しい空気を取り入れる窓の役割をした「居留地」と「新橋ステーション」を直線で結ぶ約1.2kmの中央に位置するのが旧築地3丁目である。

府立工芸学校はその築地3丁目15番



市電通り万年橋の校舎正面



シャンデリアきらめく豪華な講堂には中二階もあった

国高校）に改称されたが、さらに翌年には移転し雑用地となっていた場所だった。ツートーンカラーの校舎  
本校舎は木造瓦葺の2階建てでクリーム色の壁をチヨコレート色の木枠で引き締め、築地川に映えるその姿はモダンであった。金属細工科と精密機械科の工場は煉瓦造りの平屋建てで、たたき床の時代にコンクリート床を採用していた。

1908年には家具製作科の建物と講堂を増設した。

敷地は2,264坪、創立当初の建坪は1,040坪、1922年（大正11年）に印刷科の工場増設時には1,362坪となっていた。築地校舎講堂入口の上には「Industrial Arts School」と薄肉彫

の彫金でつくられた額が掲げられていた。講堂の周囲には芝生があり、テニスコートの際には一本の桜の古木。土俵もあり、閑取を呼んで指導も受け、全国中等学校相撲大会で優勝したこともあった。

引用文献『都立工芸100年の歩み』

都立工芸高等学校は1907年5月10日に創立 今年で115年です

伊東久江（1985年F卒）

**技術資料の制作**

- 取扱説明書
- マニュアル
- 翻訳
- テクニカルイラストレーション
- 3D
- 音楽
- 通販

有限会社 ステーション・エム  
代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル  
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456  
http://www.station-m.co.jp/ e-mail: hosoe@station-m.co.jp

PLANNING CENTER  
STATION.M  
有限会社ステーション.エム

- Instruction manual
- Service Manual
- Translation
- Technical Illustration
- 3D
- Music
- Mail-order selling

## 校友の活躍

### イタリア・気が付けば30年

長井 豊（1972年・A卒）

私が都立工芸を卒業して今年で50年、初めてイタリア・ローマの地を踏んでから40年になります。

父、叔父、共に府立工芸出身の私にとり工芸高校は元よりなじみ深い存在であり、また、祖父は鋳職、父も貴金属装身具製作の私にとり物作りは日常の事であり、その事に興味があった私が工芸高校へ行く事は自然な事でした。

A科卒業後は大学に進学、そこでは全く違った角度からデザインや工芸を考える事を学びました。

大学卒業後に改めてジュエリー製作の道に進むことを決め弟子入りをしましたが、1970年代の日本のジュエリー界はほとんどが海外ブランド模倣型であり、その事に対して絶えず疑問と違和感を持っていました。

これは日本というジュエリーの文化、伝統のない国では当然な事で、そもそも職業を正確に表す固有名詞も無いのです。そこで、82年に一大決心をして夫婦で一年間ローマに行く事にしたのです。

イタリアはジュエリーの本場であるだけでなく芸術全般において世界の中心的

な存在として歴史的に認められてきた国です。

しかし、言葉も満足に出来ない日本人が一年後に分かった事は「二年では何も分からない」という事だけでした。

その時、幸運な事に現地知り合った方の縁でローマの美術アカデミアに籍を置きながらジュエリー工房で仕事ができる事になり、その後の労働許可の取得にも繋がりました。

そこで一番役に立ったのが「技術」であった事は言うまでもありません。

その後はイタリア人と共同経営で店舗工房を持ち、ローマの顧客や職人（アルティジャーノ）仲間との交流も深まり、時と共に彼らの誇りを支える深い文化と歴史を少しは共有することが出来たと思っております。

「オリジナリティー」こそ彼らが最も大切に思っている事なのです。

イタリアで私の職業は伝統工芸であり「オラフォ」と呼ばれます。

約10年前に帰国した私は今、一人のオラフォとして伝統を進化させるべく日本で仕事を続けています。



### 田中照二氏（1964年・A卒）の活躍

田中氏は今年の日本新工芸展では文部科学大臣賞を受賞しました。また、今回の日展では日展会員の推薦による会員賞（各部門1名）を受賞されました。



日本新工芸展文部科学大臣賞「清流」（右）  
日展会員賞「煌めく」（左）

### 原典生七宝彫金の世界

原典生（1958年・A卒）

「原典生七宝彫金の世界」と銘打って

個展を平成記念美術館ギャラリーの主催で行った。手元にある大小80余点を全て見直し手を入れて25点を選び出品した。メインホール、玄関ロビー、和室床の間、洋室など建築ショールームでもあるそれぞれふさわしい場へ展示した。自作をこのような形で観られたのは初めてで、どの作品も生き生きとして力強く見映える存在感に感動した。

コロナ禍の中にもかかわらず全国各地から会派を越えて多数の方々にご来場いただき感激。北京からも心友の清華大教授もリモートで参加くださった。

会期を日展と重ねたのは過去との流れに合わせて鑑賞できるねらいがあった。昨年の日展は、50回目の出展で長年の課題としてきた彫金と七宝の色の調和統一を求めて集大成となる大実験を試み納める結果となった。

この個展の続きを北京、上海で盛大に開きたいと思いをふくらませている。



第40回日展（右）  
第8回日展（左）



# 第68回日本伝統工芸展

水口 咲氏（1993年・D卒）の作品  
「新雪」が「NHK会長賞」を受賞

公益社団法人日本工芸会が開催する国内最大級の公募展、第68回日本伝統工芸展において水口咲氏の作品、漆芸部門乾漆箱「新雪」が「NHK会長賞」を受賞しました。会場のパネルには「夜中に降り積もったばかりのふんわりとした軽み。朝、目にした新雪のさまが絶妙に形づくられている。」と解説されていました。水口氏は、第62回日本伝統工芸展でも「朝日新聞社賞」を受賞しており今回は2度目の快挙です。

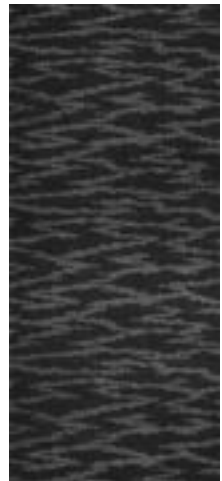


水口咲氏の作品「新雪」

日本伝統工芸展は、9月15日（水）～9月27日（月）、日本橋三越本店 本館7階催物会場において開催され、水口氏の他、次の3名の校友も入選されています。

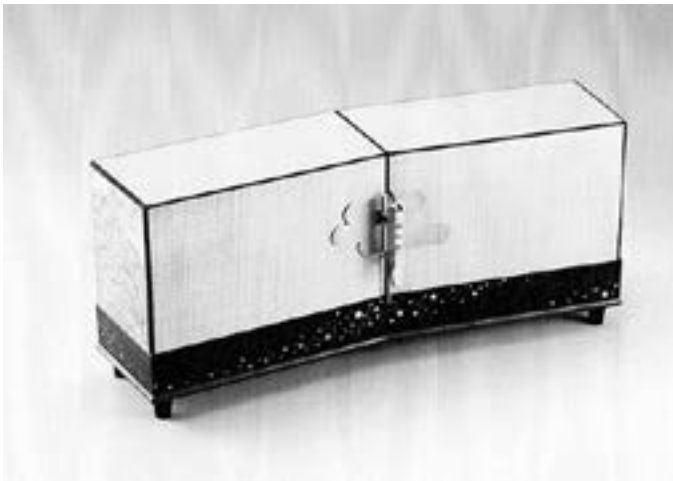
## ■染織部門

松原伸生氏（1984年・D卒）  
長板中形麻地着尺「霞文」



## ■木竹工部門

須田賢司氏（1973年・F卒）人間国宝  
楓嵌装小箆筒「安売乃宇美丹」



右  
松原伸生氏の作品  
長板中形麻地着尺「霞文」  
左  
須田賢司氏の作品  
楓嵌装小箆筒「安売乃宇美丹」

## ■金工部門

桂盛仁氏（1964年・A卒）人間国宝  
「朱鷺香盒」



桂盛仁氏の作品「朱鷺香盒」

## その他校友の活躍

春山文典氏（1964年・F卒）  
第8回日展 出展（六本木 国立新美術館）  
第5回 美の魁けー日展の現代——出展  
（銀座 和光本館6階 和光ホール）

橋場信夫氏（1969年・D卒）  
橋場信夫展「幻花」  
（吉祥寺 水音）



## 「おとなの工芸祭 mini」開催

D科25期生を中心に学年を超えた有志による作品展「おとなの工芸祭」が2010年より開催されてきました。しかしコロナ禍で2年連続中止となり、代わりに昨年に秋に町屋の会場で「おとなの工芸祭 mini」を開催、25期から63期まで20名が参加、充実した時間を過ごしました。今年10月には例年通りの「おとなの工芸祭」を市ヶ谷で開催する予定です。多くの方の参加、来場をお待ちしています。

D科旧教員 君島昌之



# 第49回伝統工芸日本金工展

(銀座 ギンザタナカ5階ホール)

公益社団法人日本工芸会が主催する伝統工芸日本金工展において3名の校友の入選作品と、若手作家を奨励する21+部門で入選した4名の校友の作品が展示されました。

## ■重要無形文化財保持者作品

桂盛仁氏(1964年・A卒)人間国宝  
「河鳥香合」



## ■入選作品

大沼千尋氏(1970年・A卒)  
黒味銅切嵌壺「黒の連山」

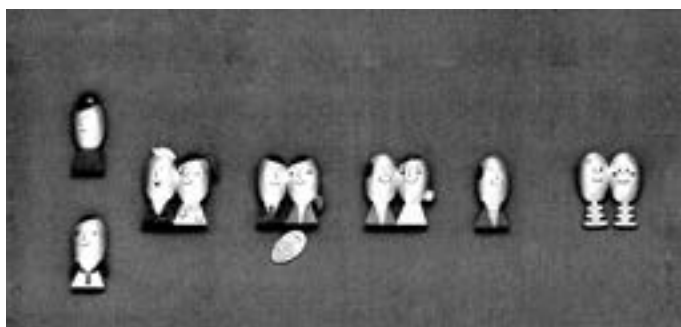


佐藤充俊氏(2005年・A卒)  
蜻蛉文象嵌小筥



## ■21+部門

「21+金工部会賞」受賞  
矢口鳩望氏(2018年・A卒)  
接合せブローチ「歩み」



矢口鳩望氏の喜びの声

「歩み」は、ある男女が出会ってから2人で人生を歩んでいく様子を表現した作品です。途中子供が産まれたり、女性がこの世を去って男性が一人で泣いていた、色々な事が起きながらも最後は天国ですと一緒歩んでいくというハッピーエンドです。この作品には「日々の小さな幸せにもっと目を向けてもらいたい」というメッセージが込められています。嫌なことばかりに目を向けるのではなく、なんて事のない日常や、いつも支えてくれる人がいる事が幸せなんだという事にこの作品を見た人に気づいてもらえたら嬉しいです。

私は専門学校でジュエリー制作について学んでおり、様々な技法を使ったジュエリー制作を行なってきました。現在は卒業制作で打ち出し技法を使ったブローチを制作しています。4月からは社会人になり、会社の職人としてジュエリーに関わっていきます。技術をたくさん学んで会社で活躍できる職人になる事が今の私の目標です。

佐藤弘美氏(2020年・A卒)

銅板打出レリーフ「愛別離苦」(右下)

神崎沙和氏(2020年・A卒)

アルミ铸造置物「この場所から。」(中央下)

會津佐久弥氏(2019年・A卒)

銅切嵌象嵌ブレスレット「日進月歩」(左下)



佐藤弘美氏の作品  
銅板打出レリーフ「愛別離苦」



神崎沙和氏の作品  
アルミ铸造置物「この場所から。」



會津佐久弥氏の作品  
銅切嵌象嵌ブレスレット「日進月歩」

■ MACHNE CRAFT

・ジュニアマイスター

ゴールド：3年 出口緑都/ 徳山実佳子/ 中村洋竣

2年 大谷飛桜友/ 佐藤凜音/ 新沼苺花

シルバー：3年 濱田彩佳/ 濱中虎太

2年 相田菜穂子/ 秋山楓/ 大金明依/ 大里琉碧/ 大竹秀佳

尾崎諒/ 越智優咲/ 菊池みよの/ 熊崎雅/ 小出爽太

小坂井倫/ 小林瑞葵/ 高田宏弥/ 田中柚衣/ 冨田佳凜

不破凜子/ 松本好里

ブロンズ：3年 國米悠吾/ 吉守七彩 2年 高野俊平太

・危険物取扱者 [甲種]：2年 1名

・第85回計算技術検定 [1級]：3年 1名・2年 5名

・計算技術検定 [1級]：3年 3名・2年 22名 [3級] 1年 29名

・機械製図検定：3年 17名

・基礎製図検定：2年 6名・1年 31名

・色彩検定：[1級] 2年 1名 [2級] 2年 8名 [3級] 1年 21名

■ INTERIOR

・基礎製図検定：2年 2名・1年 33名

・色彩検定 [夏期]：[2級] 3年 1名・2年 1名 [3級] 3年 1名・2年 1名  
1年 1名 [UC級] 3年 1名

・色彩検定 [冬期]：[2級] 3年 2名・2年 8名 [3級] 2年 1名・1年 19名  
[UC級] 2年 1名

・技能検定家具製作 [家具手加工作業]：[2級] 3年 2名

・第84回 建築CAD 検定試験：[3級] 3年 9名

・第85回 建築CAD 検定試験：[2級] 3年 5名 [4級] 2年 23名

・第86回 建築CAD 検定試験：[準1級] 3年 2名

・レタリング技能検定 [3級]：3年 10名・2年 31名 優秀賞：2年 1名

・ジュニアマイスター

ゴールド：3年 森愛

シルバー：3年 小田井遥果/ 工藤諭依/ 白川弥幸

ブロンズ：3年 齋藤想/ 須澤芳美/ 箭内理乃

■ GRAPHIC ARTS

・色彩検定 [冬期]：[2級] 2年 4名 [3級] 2年 4名・1年 6名

・グラフィックデザイン検定：[2級] 1年 34名

■ DESIGN

・レタリング技能検定：[2級] 2年 2名 [3級] 2年 30名

・色彩検定 [夏期]：[2級] 3年 9名 [3級] 2年 2名 [UC級] 2年 1名

定時制

■ INTERIOR

・東京都建設系高校生作品コンペティション2021

工芸部門 最優秀賞：山田冬威 CCI 東京特別賞：岡田愛海

審査員特別賞：米原龍彌 ポスター部門 最優秀賞：中尾桜丸

CCI 東京特別賞：武藤源太 審査員特別賞：平本大智

■ GRAPHIC ARTS

・令和3年度 明るい選挙啓発ポスターコンクール

東京都入選：1年 島崎歩実/ 松尾典珂

文京区優秀賞：1年 島崎歩実/ 平田煌土/ 松尾典珂

文京区佳作：1年 磯田玄英/ 上原穂果/ 後藤千絵

・令和3年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール

高等学校の部 優秀賞：3年 平岡布由

・第13回 環境教育ポスターコンクール

文部科学大臣賞：3年 川上悠太 入賞：4年 中山莉嘉

・第32回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞

佳作：3年 松石桃佳

資格取得・検定合格

■ ART CRAFT

・第42回パソコン利用技術検定 [3級]：1年 7名合格

・第41回パソコン利用技術検定 [2級]：2・3年 4名合格

■ MACHNE CRAFT

・第41回パソコン利用技術検定 [3級]：2年 4名合格

・アーク溶接等特別教育：2・3年 5名合格

・基礎製図検定：2年 7名合格

・第52回機械製図検定：4年 1名合格

・ICT プロフィシエンシー検定 [3級]：2年 4名合格

・第34回基礎製図検定：2・3年 8名合格

・第85回計算技術検定 [4級]：2・3年 13名合格

・ガス溶接技能講習：3年 6名合格

・機械検査技能検定 [3級]：3年 3名合格

■ INTERIOR

・レタリング検定 [3級]：2・3年 3名合格

・基礎製図検定：2年 7名合格

・家具製作 [3級]：3年 1名合格

・色彩検定 [3級]：1～4年 15名合格



越しの際はぜひご覧になって下さい。

D科OB・OGによる展示が二月二十四日から母校で始まりました。展示は七月中旬までの予定です。出展は16期福田哲夫さん・25期永井裕明さん・30期大場晴也さん・32期菊池和浩さん・33期松原伸生さん・41期杉原由美子さん・54期矢島大祐さん・57期トミムラコタさん・59期飯田えりかさん・59期駒崎友海さん・62期鶴飼千春さんと63期大島隆人さんの12名です。16期から63期まで12名の作品です。大先輩から若手・大御所から新人までの幅広いジャンルの作品が一つのショーケースに収まっている事こそがOB・OGが一体となって在校生への激励と応援をしている姿だと思えます。母校にお

D科OB・OG 展示開催中

# 母校だより

## コンクール等の入賞者・成績

全日制

### ■ ART CRAFT

- 東京ドームホテル/ アクアアートデザインコンテスト  
最優秀賞:「浦島太郎の夏休み」制作班 2年 荒井菜緒/ 岩崎祥子  
大塚涼香/ 小野葵衣/ 皆藤ここね/ 篠宮彩華  
敢闘賞:「夏祭りおめん屋さん」制作班  
3年 佐藤理生/ 旦保花瑛/ 富樫知優/ 羽染圭峻/ 森亮憲  
敢闘賞:「夏の宝物」制作班 3年 内田結那/ 鈴木日向
- エディコイラストコンテスト2021 佳作:2年 池田愛里
- KISHUN ドリームコンテスト~つなごう未来のジュエリーデザイナー~  
特別賞:3年 岩崎来都  
審査員特別賞社長賞:3年 田村桃子  
審査員特別賞小林邦寿賞:3年 富樫知優
- 第12回 アンカットダイヤモンドジュエリーコンテスト  
佳作:3年 後藤舞衣/ 中津葵乃/ 富樫知優
- 第15回糸魚川翡翠ジュエリー・アクセサリーデザイン画コンテスト  
法人会会長特別賞:3年 鈴木日向

### ■ MACHNE CRAFT

- 全国製図コンクール  
機械系 優秀賞:2年 大里琉碧/ 富田佳凜/ 新沼苺花  
佳作:2年 大金明依/ 大竹秀佳/ 佐藤凜音

### ■ INTERIOR

- 第16回若年者ものづくり競技大会  
木材加工部門 東京都代表:2年 古川琴葉
- 第59回技能五輪全国大会  
家具部門 東京都代表:3年 森愛
- 東京都建設系高校生作品コンペティション2021  
家具部門 最優秀賞:3年 工藤諭依 優秀賞:3年 箭内理乃  
模型部門 優秀賞:3年 島川樹汰  
製図部門 CCI 東京特別賞:3年 宮城野乃実  
審査員特別賞:3年 石鍋藍鈴
- 全国高校生設計アイデアコンテスト/ 長崎総合科学大学主催  
優秀賞:2年 木田栞
- 第15回もののデザインコンテスト  
クラフト部門 優良賞:2年 森田彩友/ 岩戸樹輝  
インテリアデザイン部門 優良賞:2年 大岡愛海/ 岩戸樹輝  
奨励賞:3年 宮城野乃実
- 第33回丹波の森ウッドクラフト展  
準グランプリ:3年 渡辺那智子 佳作:3年 福田十也  
学校賞:3年 東京都立工芸高等学校
- 第24回全国高校生設計アイデアコンテスト  
優秀賞:2年 木田栞

### ■ GRAPHIC ARTS

- 令和3年度書評合戦 [ビブリオバトル]

- ブックカバーデザイン/ 教育庁主催 採用:2年 海江田花凜
- 令和3年度「いきいきシニアの集い」/ 文京区主催  
採用:2年 國井かれん 入賞:2年 河田奈々/ 納谷涼花
- 飲用牛乳パックデザイン/ 教育庁主催  
独創デザイン賞:2年 寺川イリマ
- 少年の非行防止啓発ポスター/ 警視庁主催  
最優秀賞:2年 花輪桃香
- 機関誌「工業教育」の表紙デザイン/ 工業教育編集委員会主催  
優秀賞:2年 花輪桃香
- 令和3年度 未成年者喫煙防止ポスターコンクール/ 東京都福祉保健局主催  
高校生の部 最優秀賞:2年 八十島一菜  
優秀賞:2年 橋本菜月瀬/ 花輪桃香/ 馬場春之介
- 令和3年度8020運動ポスター/ 8020推進財団主催  
入選:3年 大角彩栄
- 高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ2022ポスター・プログラム原画  
優秀賞:3年 菊地武丸 奨励賞:3年 露崎凌佑/ 小林賢司

### ■ DESIGN

- 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ [冊子] / 教育庁主催  
表紙採用:2年 角田春和
- 令和3年度学校要覧 表紙採用:3年 深田駿太
- 文京区社会を明るくする大会  
ポスター・チラシ原画採用:2年 戸川晴馬  
プログラム表紙イラスト採用:2年 服部心優
- 文京・見どころ絵はがき大賞  
文京区内郵便局長賞:3年 石川恵大  
文京区観光協会賞:3年 網代瞳子  
作品賞:3年 大木陽平/ 河田あかり/ 栗本夏希/ 安田花葉子/ 柁木綾仁
- おおしま国際手づくり絵本コンクール2021  
銅賞 [射水市教育委員会賞]:3年 佐々木詩帆  
奨励賞 [富山テレビ放送賞]:3年 中澤芽衣  
奨励賞 [読売新聞北陸支社賞]:3年 平賀舞子  
入選:3年 加々美杏子/ 里見伸暁/ 高木なつめ/ 深田駿太
- “翔” 専門高校生徒体験発表文・作文・研究文集 [冊子]  
表紙採用:2年 後藤寛太  
入選:2年 土田百都花/ 奥富はなび/ 松川日和
- 第9回高校生アトライター大賞 入選:2年 荒木こもも
- 第10回高校生アトライター大賞 入選:2年 坂本桃夏
- 第11回高校生アトライター大賞 入選:2年 野村佳央
- 第12回高校生アトライター大賞 学校賞:東京都立工芸高等学校
- 川カシャ!2021 ~第40回川の写真コンクール~:2年 田中望
- IMA Next #26 JUDGE: 蛭川美花 グランプリ:2年 平田凜花

資格取得・検定合格

### ■ ART CRAFT

- 基礎製図検定:2年3名・1年35名

P11 へつづく

## 都立工芸同窓会 会報 こうげい No.179

発行者: 梶広幸 編集: 梶広幸 神山隆夫 磯野祥 伊東久江 デザイン: 中村陽道 印刷所: 大東印刷工業株式会社

発行: 都立工芸同窓会 〒113-0033 文京区本郷1-3-9 都立工芸高等学校内 Tel.03-3814-8755 (呼)

事務局: 神山隆夫 磯野祥